

## 会 議 録

会議名 (審議会等名)		平成 27 年度相模原市総合計画審議会第 3 回第 1 部会			
事務局 (担当課)		企画政策課 電話 0 4 2 - 7 6 9 - 8 2 0 3 (直通)			
開催日時		平成 27 年 8 月 1 8 日 (火) 1 4 時 0 0 分 ~ 1 7 時 3 0 分			
開催場所		相模原市役所本庁舎本館 2 階 第 1 特別会議室			
出席者	委員	4 人 (別紙のとおり)			
	その他	0 人			
	事務局	5 人 (企画政策課長 他 4 人)			
公開の可否	可	不可	一部不可	傍聴者数	なし
公開不可・一部不可の場合は、その理由					
会議次第	<p>開会</p> <p>1 議事</p> <p>( 1 ) 総合計画進行管理の 2 次評価及び改善工程表のモニタリングについて</p> <p>( 2 ) その他</p> <p>閉会</p>				

## 審 議 経 過

( 委員の発言、 部会長の発言、 事務局または所管課の発言 )

開会 小林企画政策課長

吉田部会長の進行により議事に入った。

( 1 ) 総合計画進行管理の 2 次評価及び改善工程表のモニタリングについて

施策 1、施策 2、施策 4、施策 5、施策 8、施策 9 について、進行管理シート及び改善工程表並びにヒアリングシートに基づき、施策ごとに評価を行う。

### 施策 1 地域福祉の推進 ( 2 次評価 ) ( ヒアリング )

指標 1 「地域で、住民がお互いに支えあっていると感じる市民の割合」の目標設定の考え方についてお聞きしたい。

指標は平成 2 1 年度に設定したものである。地域の人たちの支えあい活動の場の一つであるサロンの設置増加数の割合を基に目標値を設定したものである。その際に参考にしたのは、平成 1 8 年度から平成 2 0 年度に設置したサロン数である。

市民アンケートの意識調査結果とサロンの増加数は相関関係にあるということか。

サロンは地域の方の支えあいの場の一つであり、この数が増えていくことが、地域で住民が互いに支えあっていると感じる機会の増加に繋がるものと考えている。しかし、市民の意識に変化が見られているかどうかまで把握・分析できていない。

サロンを増やすことが、地域で住民が互いに支えあっていると感じることに直結するわけではないと認識している。目標が達成できていない中、その点をどのように分析しているのか。

現段階では分析できていない。今後、分析を行い根拠を明確に説明できるよう

にしていきたい。

指標1について、サロンの増加数が重要な視点となることは理解できるが、サロンの増減が指標の評価に直結してくるわけではないので、サブ指標でその部分を設定して、別物として評価・分析していくほうが分かりやすいと考える。

指標1「地域で、住民が互いに支えあっていると感じる市民の割合」と、サブ指標1-1「ボランティア登録制度の登録者数」とはどのような関係にあるか。

ボランティア意識の高まりにより、住民が互いに支え合う担い手になるというところで関係性は深いと考えている。

サブ指標1-2「ノンステップバスの導入率」について、今後、高齢化社会が進む中で、最終的に目指すべき目標値が低いと思うが、どのように考えているか。

コスト面や補助金の問題もあることから、一度に行うというよりも段階的に導入率を上げていく方針であり、目標値については適正であると考えている。

民生委員協力員制度について、他の指定都市と比べて、どのような付加価値を付けて運営していくのか。

民生委員の負担を軽減するというところを趣旨としていることから、付加価値を付けるというよりは、いかに民生委員との協力体制を作っていくかが重要かと考えている。

施策進行管理シートについて、目標設定の考え方等の根拠をもう少し明確化してもらいたい。

相模原市社会福祉協議会の自主財源の推移について、平成26年度の公益事業会計からの繰入と収益事業会計からの繰入が大きく増加しているが、理由は何か。

公益事業については、社会福祉協議会より施設の指定管理を受けており、その5年間分の収益を計上しているためである。収益事業については、自動販売機の設置事業を積極的に行った結果といえる。

社会福祉協議会を指導するような形で、補助金を減らす等の取組が必要である  
と考える。

### (評価)

成果指標はC評価、サブ指標はA・B評価がそれぞれ1つずつとなっている。  
1次評価は概ね目標通りの成果をあげていることから、B評価となっている。

ノンステップバス導入等、努力している姿勢は見られる。他については、事業  
でどのような成果をあげているかの記載があまりないが、概ね目標通りの成果  
をあげている。

B評価でよいと考えるが、他に意見はあるか。

異議なし

評価：B

## 施策2 援護を必要とする人の生活安定と自立支援(2次評価) (ヒアリング)

子ども・若者への支援は、全日制高校への進学促進、安定した高校生活の確  
保、高校卒業後の進路支援を柱に実施しているとのことであるが、生活困窮者  
の家庭の生徒に対して、どのような効果があると考えているか。

子どもの貧困がクローズアップされている中で、貧困の連鎖に対応すべく、国  
も学習支援に力を入れている。全日制高校への進学を促進するのは、学習能力  
や社会性を身につけて就職してもらいたいという考えからきている。

ホームレス支援事業は、平成26年3月末まで民間委託にて行われていたよう  
であるが、現在は行っていないのか。

ホームレス等一時生活支援事業として現在も継続して実施している。平成27  
年4月1日に生活困窮者自立支援法が施行され、ホームレス支援についても、  
この法律に盛り込まれている。

自覚・認識がないために福祉制度にたどりつけない生活困窮者を救済するための事業は行っているのか。

制度を知らない方や窓口来所が困難な方への対応について、庁内関係部署に加え、地域の関係機関や団体等に対して周知や案内の協力をいただき、生活困窮者の把握と支援に努めている状況である。ネットカフェや駅等にパンフレットを常置してもらう取組も実施している。

大学生等の学生ボランティアサークルと施策を実施していくような取組はあるのか。

現状はない。

生活保護受給者が自立したとする基準はあるのか。

現状はない。単に就学・就職できた等の結果を評価するのではなく、質的にどのような効果があったか等を測れないか、現在、大学教授等と研究しているところである。

質的とはどういうことか。

数値的なものではなくて、児童生徒の内面的にどのような変化が出てきたかということである。

施策進行管理シートの目標設定の考え方について、もう少し根拠を明確に記載してもらいたい。

生活保護受給者数及び生活保護費が増加してきている要因はどう考えるか。

平成20年のリーマンショックの影響があると思う。一時的に前年比20%超増加したが、それ以降の伸び率としては減少に転じている。

生活保護費の補助率はどの程度か。

国が4分の3、市が4分の1である。

サブ指標 2 - 2 「学習支援を行った中学 3 年生の高校進学率」については、生活保護受給世帯の中学生を対象に、勉強会に参加した中学 3 年生の高校進学率を指標にしているが、勉強会に参加した人に限定するのではなく、生活保護受給世帯全体の進学率を指標にしないと、市としての成果とはいえないと思う。

#### (評価)

1 次評価が A 評価、成果指標が A 評価、サブ指標が A・B 評価がそれぞれ 1 つずつと概ね目標を達成している。

指標 2 「生活保護を受けている人のうち、自立支援プログラムに参加した人の割合」について、目標を達成していることは評価するが、目標値が低い印象がある。更に高い目標を目指していただきたい。

2 次評価は B 評価と考える。他に意見はあるか。

異議なし

評価：B

#### 施策 4 子育て環境の充実（改善工程表モニタリング）

##### (ヒアリング)

指標 5 「子どもを育てやすい環境であると感じている市民の割合」について、結果分析の根拠を教えてください。また、このことについてアンケート結果のクロス集計等は行ったか。

明確な根拠を示せるような分析はできていない。クロス集計等も行っていない。

サブ指標 4 - 2 「子育てサポーターの登録者数」について、平成 26 年度の目標値が、基準値である平成 25 年度の数値より低く設定されているのは何故か。

基準値は平成 25 年度の実績値を採用している。平成 26 年度の目標値については、平成 26 年度の第 2 四半期を経過後に設定したものである。理由として

は、目標値設定時点で既に平成26年度の募集期間が終了しており、設定時点の募集者数をそのまま目標値としたため、基準値より低くなっている。

「子育て広場」と「ふれあい親子サロン」とは、どのような関係にあるのか。

「子育て広場」は、乳幼児の親子が気軽に集まり、情報交換や子育ての相談ができる常設の場所である。また、行政が中心となって行っているのが「ふれあい親子サロン」で、主に市内のこどもセンターで実施しており、月に1回、保健師や保育士、民生委員等の地域スタッフが育児や遊びのヒントを提供している。

施策進行管理シートの目標設定の考え方について、もう少し根拠を明記してもらいたい。

施策を推進するにあたり、国の方針に従って行うということが多いと感じるが、もう少し市独自の考え方で進めるようなことを検討してもよいと考える。

## 施策5 青少年の健全育成（2次評価） （ヒアリング）

子ども・若者育成支援協議会を年1回、同実務者会議を年2回開催するということであるが、どのような効果を見込んでいるのか。

社会生活を円滑に営むうえで困難を有する子どもの問題が深刻化している中で、現在の縦割りの仕組みでは対応に限界があるため、多面的な支援を実現すべく、庁内に限らず警察や青少年団体を含め、連携体制の強化を図っている。実務者会議は、今年度3回を予定しており、こうした会議を契機に個別支援の強化を図っていく考えである。

近隣の自治体と連携しているか。

町田市とは健全育成の担当者と定期的に相談等の機会を設けている。

指標7「不良行為少年補導人数」について、補導人数が大幅に減少した理由を記載しているが、現在は以前と比べて、数字だけで健全育成が図られているか

が見えにくくなっている。新しい視点で指標を設定する必要があると考える。

この指標に替わるものは、現状考えていない。

今後、人口減少が進み、絶対数が減っていく中で、補導人数を指標とするのはいかなものかと思う。

指標7については、再犯を含めて減少させていくという趣旨のもとに設定したものである。

各種事業の啓発にかかるパンフレットやポスター等の作成については、在庫・廃棄管理等、コストを意識した事業運営に努められたい。

#### (評価)

成果指標はA評価、サブ指標はA評価が1つ、B評価が2つで、成果目標は大きく上回っているものの、サブ指標や事業の取組結果について目標値を下回ったことから、1次評価はB評価としている。

2次評価はB評価でよいと思うが、他に意見はあるか。

異議なし

評価：B

#### 施策8 障害者の自立支援と社会参加（改善工程表モニタリング） （ヒアリング）

改善工程表の記載にあたっては、より具体的に記載されたい。

指標14「相談支援を受けている件数」の平成26年度実績値は前年比で大幅に増加している。理由として、南区や緑区でキーステーションを開設したことや、相談件数の計上方法を厚生労働省から示されている書式を参考に変更したことを挙げているが、実質的な相談件数が増えているのか。

相談件数の計上方法を厚生労働省から示されている書式に変更したことに伴い、

件数入力項目が倍増したため、相談件数が増加したものである。

平成25年度相談件数を2倍の数値と置き換え、平成26年度と比較しても約1.7倍の増加となることから、実質的にも相談件数は増加したものと判断している。

件数の計上方法が変わったのであれば、その理由・根拠を分かりやすく明記してもらいたい。

改善工程表の対応方針の記載で、障害のある方々のスポーツ文化芸術活動に参加できる機会の充実とあるが、市民選手権等に障害者スポーツを組み入れることは可能か。

障害者スポーツには様々な配慮が必要となるため、市民選手権等の健常者の大会に障害者スポーツを組み入れることは課題が多いものと考えているが、障害者スポーツの普及啓発の一環として、毎年行われているスポーツフェスティバルにおいて、平成24年度から障害者スポーツに関わるブースを設置し、啓発活動を行っている。

第2次さがみはら男女共同参画プラン21には、性同一性障害等に関する事項が盛り込まれているのか。

盛り込まれている。第2次さがみはら男女共同参画プラン21において、性同一性障害や性に関する相談体制の構築に取り組んでいるところである。

## 施策9 障害児の支援（2次評価）

### （ヒアリング）

「指標16 療育相談やリハビリテーションを行っている障害児の数（利用者数）」の利用者数データは「陽光園」の利用者数に限定しているということか。市全体の数字を使用しないのか。

そうである。陽光園を中心とした相模原市の療育の件数に限定した指標設定・評価をしている。公共施設と民間施設では、療育内容や体制が異なっているためである。

緑区に合同庁舎ができて療育相談室が設置されているが、その施設の利用者数は算入されているのか。

算入している。

「障害児の療育・支援施設運営事業」の平成26年度・平成27年度の指標・目標が同じなのはなぜか。

継続事業であることや、療育センター再整備事業については何年もかけて行う事業であるため、同じ指標・目標となっている。個別の取組は実績の中に記載するようにしている。

事業の評価・分析がしっかりできていれば、指標・目標が毎年同じになることはないと思う。その点をもう少し考慮した上で、目標設定等をしてもらいたい。

障害者の方がどのくらい相模原市にいるのか、またどのような支援が必要かということ把握した上で、施策を実施する必要があると考える。そして、現在の数を増やしていく指標だけでは、質の向上の視点が欠けていくと思うので、その点を考慮した指標設定・評価をしてもらいたい。

ペアレントトレーニングの取組は、さらに充実させてもらいたい。

ペアレントトレーニングは、陽光園で実施しているものである。実績値については、目標を大きく上回っている状況であり、保護者等の意識にも変化が見られたと考えている。

#### (評価)

成果指標・サブ指標はそれぞれA評価で目標を達成している。今後は、支援の質を向上させる取組についても検討されたい。

2次評価はA評価でよいと思う。他に意見はあるか。

異議なし

評価：A

## ( 2 ) その他

次第の( 2 )「その他」へ移る。事務局から何かあるか。  
特になし。

本日の議事は終了とする。

閉会 小林企画政策課長

以 上

## 相模原市総合計画審議会第1部会 委員出欠席名簿

	氏 名	所 属 等	備 考	出欠席
1	吉田 民雄	総合政策プランナー	部会長	出席
2	荒井 容子	法政大学社会学部社会学科		出席
3	鈴木 敏彦	和泉短期大学児童福祉学科		欠席
4	佐藤 慶一	公募		出席
5	宮 久美子	公募		出席